2026年度 第6回（11月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生のハルトは、バスケットボール部で新人戦のスタメン（ポイントガード）の座を、幼なじみのソウタと争っていた。

「次のミニゲームから、スタメン候補のポジションを入れ替える。」コーチの声が、体育館に響いた。ハルトはボールを両手で抱えたまま、小さく息を吐いた。

①また、ソウタの方が選ばれるかもしれない、という焦りが、胸の奥から押し上がってくる。ポイントガードの座を争っているのは、幼なじみのソウタだった。新人戦のスタメンは、あと二週間後に発表される。

ソウタは、コーチの指示通りにボールを散らし、周りの動きをよく見てパスを出していた。ハルトのパスが味方の手元から少しずれるたびに、コーチは何も言わなかったが、ハルトにはそれが余計にこたえた。

練習が終わり、二人だけが体育館に残った。ソウタはボールをかかえながら、ハルトの方を見ずに言った。「②お前、一対一になると急に迷うよな。前はもっと思い切って仕掛けてたのに。」その言葉に、ハルトは思わずボールを強く握った。

「別に、迷ってなんかいない。」ハルトは、そう言いながらも、自分の声が揺れているのがわかった。実際、一対一で、ソウタをかわそうとするたびに、わずかな迷いが生まれていることに、心当たりがあった。

ソウタは、少し黙ったあとで、ぽつりと言った。「③俺、スタメンに選ばれなくても、ハルトのパスを受ける係に回れたら、それもいいなって、最近思うようになったんだ。」

ハルトは、その言葉に驚いた。ソウタはいつも堂々とプレーしていて、スタメン以外の役割を考えているなんて、少しも想像していなかった。

「俺は別に、気楽な係狙いとかじゃないけどな。」ハルトは、そう返しながらも、さっきまでの重さが少し軽くなっているのに気づいた。④肩から、すとんと力が抜けていくのがわかった。

「……そっか。」ソウタの声から、さっきまでの硬さが少し抜けていた。「どっちがスタメンになっても、チームのために全力を出す。それでいいじゃん。」

「それでいい。」ハルトは、ボールをもう一度強く握った。「一対一でも、これからは、迷わず仕掛ける。」

翌日の練習、一対一でハルトはソウタをかわし、ノールックパスを決めた。コーチが初めて「今のは良かった」と声をかけた。⑤体育館を出るとき、ハルトの足は、来たときよりも弾んでいた。

問1 ①「また、ソウタの方が選ばれるかもしれない、という焦りが、胸の奥から押し上がってくる」とありますが、このときのハルトの様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア自分の実力がソウタよりも劣っていると感じ、バスケットボール自体をやめたいと思っている。

イスタメンの座をソウタに争われていることに焦りを感じ、落ち着かない気持ちになっている。

ウコーチの指示が不公平だと感じ、ソウタへの対抗心を強めている。

エ自分のポジション自体に不満があり、別のポジションに移りたいと思っている。

問2 ②「お前、一対一になると急に迷うよな。前はもっと思い切って仕掛けてたのに。」とありますが、この言葉を聞いたハルトの様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア指摘された弱点に心当たりがなく、ソウタの思い違いだと考えている。

イ指摘が的を射ていると感じつつも、素直には認めたくなくて、言葉に詰まっている。

ウソウタに弱点を指摘されたことに腹を立て、すぐに言い返そうとしている。

エソウタの指摘は的外れだと思い、気にせず聞き流そうとしている。

問3 ③「俺、スタメンに選ばれなくても、ハルトのパスを受ける係に回れたら、それもいいなって、最近思うようになったんだ。」とありますが、ソウタはどのような思いでこの言葉を言いましたか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、勝つ、役割の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「肩から、すとんと力が抜けていくのがわかった」とありますが、このときのハルトの心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

アソウタが本気でスタメンを争う気がないと知り、自分が有利になったと安心している。

イソウタも自分と同じように、勝敗だけでなくチームへの関わり方を考えていたことを知り、気持ちが軽くなっている。

ウソウタに弱点を指摘されたことを根に持たず、仲直りできたことだけに安心している。

エソウタが争いをやめると約束したので、自分の責任がなくなったと感じている。

問5 ⑤「体育館を出るとき、ハルトの足は、来たときよりも弾んでいた」とありますが、このときのハルトの心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

アスタメンに決まったわけではないが、迷わず仕掛けられたことに手応えを感じている。

イもうスタメン争いに勝つ必要がなくなったと感じ、気が抜けている。

ウソウタとの争いに完全に勝ったという確信から、誇らしい気持ちになっている。

エコーチにほめられたことで、今後は練習しなくてもよいと安心している。

問6 本文の内容や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア ハルトとソウタ、互いの本音を、練習後の会話を通して描く構成になっている。

イ 「胸の奥から押し上がってくる」という表現によって、ハルトの焦りが身体感覚として描かれている。

ウ 本文には会話文がなく、地の文の説明だけで二人の関係の変化が描かれている。

エ 「気楽な係狙いとかじゃない」というハルトの言葉と、「それもいいな」というソウタの言葉が対応し、二人の関係の変化を印象づけている。

オ 本文は、新人戦の試合当日の様子だけを描いて構成されている。

2

問1 ⑴ 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

交渉は円滑に進んだ。（読み）

問1 ⑵ （各2点） 知らせを受けて、急いで現場へ赴く。（読み）

問1 ⑶ （各2点） 相手の意見をソンチョウする。（書き）

問1 ⑷ （各2点） 台風の接近にケイカイする。（書き）

問2 ⑴ 次の⑴・⑵の――部のかたかなを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を答えなさい。（各2点）

クラスの大半が、山田さんの意見をシジする。

ア 困った人をシエンする。

イ 計画をシジ通りに進める。

ウ 作品のシヒョウとなる。

エ 新商品をシサクする。

問2 ⑵ （2点） 自分の主張をキョウチョウする。

ア 台風が勢いをキョウカする。

イ 二つの意見がキョウツウする。

ウ 仕事にキョウリョクする。

エ 新しい技術にキョウミを持つ。

問3 次のア～エの――部の中から、品詞が副詞であるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア 彼はいつもゆっくり話す。

イ 静かな教室で勉強する。

ウ 小さな声でつぶやく。

エ 美しい景色が広がる。

問4 次のア～エの――部の「ない」の中から、他と性質の異なるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア この問題はなかなか解けない。
イ 今日は時間がない。
ウ 弟は野菜を食べない。
エ まだ準備ができていない。

問5 次の文の空欄にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

普段は正確なサーブを打つ選手が大事な場面でミスをしたのを見て、観客が「［　　］だね」とつぶやいた。

ア 弘法にも筆の誤り
イ 蒔かぬ種は生えぬ
ウ 二度あることは三度ある
エ 火のない所に煙は立たぬ

問6 次の文の空欄にあてはまる慣用句として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

何度も同じ練習を繰り返してきたキャプテンの指示の出し方は、すっかり「［　　］」ようになった。

ア 腹をくくる
イ 板につく
ウ 図に乗る
エ 肩を落とす

問7 ⑴ N中学校の文化祭実行委員会では、当日の来場者案内について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、あとの⑴・⑵に答えなさい。

【話し合いの様子】

係長「今日は文化祭当日の来場者案内について話し合います。まず、山本さんから提案をお願いします。」

山本「はい。わたしは、受付でパンフレットを配りながら、会場までの道を案内する役割を提案します。」

小林「配るだけでなく、困っている方には声をかけた方がいいと思うよ。」

山本「たしかにそうですね。困っている方がいたら、わたしたちから〔　Ⅰ　〕ようにしましょう。」

⑴ 【話し合いの様子】の空欄〔Ⅰ〕にあてはまる、来場者に対する言葉として最も適切な敬語を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア 声をかけてさしあげる
イ 声をかけていらっしゃる
ウ 声をかけてくださる
エ 声をおかけになる

問7 ⑵ この話し合いで、小林さんはどのような役割を果たしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

ア 山本さんの提案に対して、より来場者に寄り添うための視点（声かけ）を加えている。
イ 山本さんの提案をそのまま否定し、まったく別の企画を提案している。
ウ 山本さんの発言を無視して、自分の意見だけを一方的に述べている。
エ 話し合いを早く終わらせるために、強引に結論を出している。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

「あいづち」と聞くと、話を軽く聞いているときに出す、ただの反応だと思う人が多いだろう。実際、「うん」「そうだね」といった短い言葉には、特別な意味がないように見える。

ところが、言語学の視点から見ると、あいづちは会話を支える重要な役割を担っている。たとえば、話し手が長く話しているとき、聞き手が何も反応を示さないと、話し手は「ちゃんと伝わっているのだろうか」と不安になり、話すペースが乱れてしまうことがある。

①さらに、あいづちのタイミングには、聞き手がどれだけ注意深く話を聞いているかが表れる。話の切れ目でうなずくだけでなく、話の途中で「それで？」と短く問いかけることで、聞き手は話し手に「続きを聞きたい」という気持ちを伝えている。

あいづちが生み出す安心感は、見過ごせない働きを持つ。②あいづちを受けた話し手は、聞き手が自分の話に関心を持っていると感じ、より詳しく、率直に話すようになることが多い。あいづちをまったく返さない聞き手の前では、話し手は言葉を選びすぎたり、話を早めに切り上げたりすることがある。

もちろん、あいづちを打てば打つほどよいという話ではない。相手の話の途中で何度も言葉をはさんでしまうと、話の腰を折ることになり、話し手はかえって話しづらくなる。③問題は、「あい

づち＝ただうなずくだけの行為」という単純な見方で終わらせてしまうことだ。

近年、聞き手の表情やうなずきの速さまで含めて「聞く技術」として指導する教育の試みも増えている。これは、あいづちを単なる相づちとしてではなく、会話という営みの一部として見直そうとする試みである。

④自分が話したいことだけを進め、相手の反応を気にかけない発想では、見えてこないものがある。あいづちもまた、話し手の気持ちを支え、会話のテンポを整え、人と人のつながりを保っている、コミュニケーションの一部なのである。

「あいづち」という一つの言葉でくくられている行為には、会話を支えるいくつもの働きがある。そのことに気づくことは、普段の会話を見直すきっかけになるはずだ。

問1 ①「さらに、あいづちのタイミングには、聞き手がどれだけ注意深く話を聞いているかが表れる」とありますが、これはどのようなことを表していますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

アあいづちの声の大きさによって、聞き手の性格が判断できるということ。

イ話の切れ目や途中での反応の仕方によって、聞き手の注意深さが示されるということ。

ウあいづちの回数が多いほど、聞き手が話に賛成していることになるということ。

エあいづちを打つ速さによって、聞き手の年齢がわかるということ。

問2 ②「あいづちを受けた話し手は、聞き手が自分の話に関心を持っていると感じ、より詳しく、率直に話すようになることが多い」とありますが、このことから筆者が述べている、あいづちをまったく返さないことの問題点として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア話し手が、聞き手の関心の低さを感じ取り、話し方が慎重になったり話を早めに切り上げたりすることがあること。

イ聞き手が話の内容を正確に理解できなくなり、誤解が生まれること。

ウ話し手が話すスピードを上げすぎてしまい、聞き手が内容を聞き取れなくなること。

エあいづちがないことで、会話そのものが成立しなくなり、沈黙が続くこと。

問3 ③「問題は、『あいづち＝ただうなずくだけの行為』という単純な見方で終わらせてしまうことだ」とありますが、筆者はどういうことを問題だと述べていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、安心、テンポの二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「自分が話したいことだけを進め、相手の反応を気にかけない発想では、見えてこないものがある」とありますが、この発想では見えてこないものとは何ですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

アあいづちが、話し手の気持ちを支え、会話のテンポを整え、人と人のつながりを保っているという、コミュニケーションの一部としての役割。

イあいづちを打つことで、聞き手の集中力が低下してしまうという事実。

ウあいづちの回数を数えることで、会話の善し悪しを判定できるということ。

エあいづちの種類によって、方言の違いが明確になるということ。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア「あいづち」に対する一般的な思い込みを示し、それをくつがえす形で論を展開している。

イ聞き手の表情やうなずきの速さを研究した専門家への取材記録をもとに、主張を補強している。

ウあいづちのタイミングや安心感の例を挙げて、あいづちが果たしている具体的な役割をわかりやすく説明している。

エあいづちが不要だと述べているのではなく、見方を広げることの大切さを述べている。

問6 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

アあいづちを多く打てば打つほど、会話は必ずうまくいく。

イあいづちは、話し手を安心させたり会話のテンポを整えたりする役割を持つ一方で、打ちすぎると話の腰を折ることもあるため、打ち方を工夫する必要がある。

ウあいづちは話の内容に関係がなく、会話にとって重要ではない。

エあいづちのタイミングを研究すれば、誰でも完璧な会話ができるようになる。

4

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。）（16点）

ある山里に、柿の木一本ありける家あり。家の主は、年ごとに実の熟るるを待ちて、近隣の人々に分かち与ふるを、楽しみとしける。（ある山里に、柿の木が一本ある家があった。その家の主人は、毎年実が熟すのを待って、近所の人々に分け与えることを楽しみにしていた。）

今年は、ことに実の多くなりたれば、主、①うれしく思ひて、枝を見やりつつ、「今年は格別なり」とつぶやきける。（今年は、特に実が多くなったので、主人はうれしく思って、枝を見やりながら、「今年は格別だ」とつぶやいた。）

さるころ、隣に住む若き者、来て言ふ、「②この木、年ごとにかく多く実をつけ候ふは、いかなるゆゑにか」と問ふ。（そのころ、隣に住む若者が来て言った、「この木が、毎年このように多くの実をつけるのは、どういう理由によるのか」と尋ねた。）

主、答へて言はく、「③この木は、年により実の多き少なきあり。多き年の次には、少なき年の来ることぞ、世の常なれば、今年の多きを喜ぶとともに、来年の少なきをも、心にとどめおくべし」と語りける。（主人は、答えて言った、「この木は、年によって実の多い少ないがある。実の多い年

の次には、実の少ない年が来ることが世の常であるから、今年の多いことを喜ぶとともに、来年の少ないことも、心にとどめておくべきだ」と語った。）

若き者、これを聞きて、深くうなづきぬ。④人の世もまた、かくのごとし。よきことの続くときも、悪きことの来たるを忘れずして、心を平らかに保つこそ、まことの知恵なれ、と語り伝へたり。（若者は、これを聞いて、深くうなずいた。人の世もまた、これと同じだ。よいことが続くときも、悪いことが来ることを忘れずに、心を平らかに保つことこそ、本当の知恵である、と語り伝えられている。）

（注）隔年結果（かくねんけっか）……果物の木が、実を多くつける年と少なくつける年を交互に繰り返す性質。

問1 ①「うれしく思ひて」を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。（4点）

問2 ②「『この木、年ごとにかく多く実をつけ候ふは、いかなるゆゑにか』と問ふ」とありますが、若者がこのように尋ねたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア柿の実の数を正確に数えて、来年の収穫を予測しようとしたから。
イ毎年多くの実をつける柿の木の様子を不思議に思い、その理由を知りたいと思ったから。
ウ柿の木を自分のものにしたいと考え、言い訳を探していたから。
エ主人の自慢げな態度に腹を立て、言い返そうとしたから。

問3 主が③のように語った理由を次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（4点）

「柿の実は、［　10字～20字　］と考えたため。」

問4 ④の部分で語り伝えられている教えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア よいことが続くときほど、周りの人に自慢するべきである。
イ よいことが続くときも、悪いことが来ることを忘れずに、心を平らかに保つことこそ、本当の知恵である。
ウ 悪いことを避けるためには、何も行動せずじっと待つのがよい。
エ 柿の実の数を正確に数えることが、何よりも大切である。

（以上で問題は終わりです。）